私達は顔晴（がんば）っています！

コロナウイルスの影響で奉詠大会、講習会、検定会もなし。なかなかモチベーションが上がらない状況の中、皆さん悩んでらっしゃいました。
しかし、こういう時だからこそ原点に戻ってみましょう。初心にかえってお唱えの基本から初めてみましょう。そして、一番大事なことは、自分はなぜ梅花をするのか。自分に問いかけてみましょう。
コロナ禍が収束した時、きっと新しい何かが見えてきます。　　小野卓也先生

皆様と共に勉強できるのがとても楽しいです。
私にとって、梅花を学べるのは月一回の梅研講習会だけです。
だから、この勉強会をとっても大事にしています。
小野先生から大事なことは「梅花に親しむ事」と教えていただきましたが、最近ようやくその意味がわかってきました。
それは、受け身ではなく、自分から求めていくことだと思います。
これからも頑張ってまいります。　　詠範会会長　安部恵美子

マスクで感染防止　誰？

休憩時間では談笑している皆様でしたが、講習が始まると一転して真剣そのものです。
そんな皆様の好きな曲は様々で、伝心は名曲！　初めて澄心を聞いた時、驚きと共に心に残りました。霊鷲山の風景と高嶺が重なります。等々。中にはお風呂に入るとつい達磨大師御和讃を口ずさんでしまうと方もいらっしゃいました。
宗務所梅花講はこの方達の熱意にに支えられています。感謝です。　　梅花主事　鈴木

梅花新聞

vol.1

発行年月日
2020年９月1日

発行人
曹洞宗山形県
第二宗務所

師範 詠範

何があっても休まんにぇ！

梅花新聞

Vol. 2

発行年月日
2020年10月１日

発行人
曹洞宗山形県
第二宗務所

**龍高院
梅花講**

休まんにぇ！龍高院梅花講の合言葉だそうです。肩が痛くとも、膝が痛くとも、たとえ骨折しても「休まんにぇ！」とお寺に通ってくる小浅さんの言葉がいつしか龍高院梅花講の合言葉になりました。
現在大教導合格を目指して月三回の練習を頑張っています。自分たちは生き残りだ（笑）とおっしゃるベテランのお二人がさんがそっと若い人の背中を押して応援して下さっているそうです。

元特派師範の高橋信幸先生の熱血指導です

この傾向と対策がすごいです

・始めた頃は寝ても覚めても御詠歌を口ずさんでました。あの頃は楽しかったなあ
・カラオケに行った時のことです。娘がマイクを持って「唱え奉る～♪」と三宝御和讃を歌い出ししたのでびっくり。ばあちゃんが練習してたので覚えちゃったんですね。
・お誓いのように、梅花流の教えが生活の中でようやく生かされてきました。
　生きた教科書のような皆さんのお話に時間がたつのも忘れました。

敷物がステキ

私と講員さんは先生と生徒という関係ではなく、共に勉強させていただいているという感じです。皆さん真面目なので「休まんにぇ」と私の方が背中を押されているくらいです。このまま仲良く梅花流を続けていけたらありがたいです。
そして、技術も大事ですが、お釈迦さまの前で落ち着いてお唱えできるようになれる講になることが最終目標です。
それまで、「休まんにぇ」ですね。

龍高院寺族　安部恵美子

梅花新聞

Vol. 3
発行年月日
2020年12月２日

発行人
曹洞宗山形県
第二宗務所

寶昌寺 梅花講

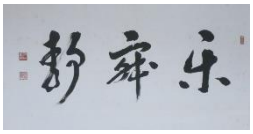
それぞれの願いを持ってお唱えする！

それぞれの願いを持ってお唱えする。ある方は先祖供養の為、ある方は家族の幸せの為、健康の為、検定の為、そして、楽にあの世に旅立てるように！
他人と比較して自分を卑下したり、高慢にならないように、自分の思いで梅花に精進する。それが長続きする秘訣と金原先生はおっしゃいました。坐禅のように一人一人の信心が大事だと思います。

夜は特訓！昼はお茶飲み♪

夜の部の方は検定に向けて、階級ごとに、お茶飲みもせず、休憩もとらずに一時間半真剣に練習するそうです。
その代わり、昼の部では楽しくお茶飲みするそうです。
講員さんは月２.3回ですが、金原先生は月８.９回の講習になります。すごいですね。

愛のムチのお陰で作法も決まってます。



楽寂静（ぎょうじゃくじょう）
寶昌寺さまの床の間の掛軸です。
南澤道人禅師さまの直筆です。

私は学が無いので、管内の著名な御老師に意味をお聞きしました。
「世の中のいろいろなさわがしさから離れ、心を穏やかにしたいと願う人が独り静かに座ること」
楽しむではなく、願うと訳するのだそうです。

「〇〇さんまだ講習終わってないわよ。法具を組まないで！」（笑）

心の共鳴

金原先生がおっしゃいました。「母が亡くなった時のことです。梅花をお唱えした時に涙がぼろぼろでたんですよ。心が共鳴し合ったんでしょうね。それで梅花がとっても好きになりました。」
「〇〇さんもお友達を亡くした直後の練習会でお唱えしながら涙が止まらなかったよね。」
「〇〇さんのお母さんが亡くなった時もお寺で梅花をお唱えしました。」
それぞれの願いをもって心でお唱えなさっている寶昌寺梅花講でした。

そうすけ君も応援です